

日本遺産
構成文化財
を訪ねる

東海道 箱根八里 散策地図

日本遺産「箱根八里」

旅人たちの足跡を残る悠久の石畳道―箱根八里で辿る遙かな江戸の旅路―



「天下の險と歌に唄われた箱根山を東西に越える筋の道、東海道「箱根八里」。江戸時代の大幹線であった「箱根八里」には、繁華な往来を支えるために当時の日本で随の壮大な石畳が敷かれた。西国大名やオランダ商館長、朝鮮通信使や長崎奉行など、歴史に名を残す旅人たちの足跡が残る街道をひととき辿れば、宿場町や茶屋、関所や並木・里塚と、道沿いに次々と往時のままの情景が立ち現れてきて、遙か時代を超え、訪れる者を江戸の旅へと誘います。



箱根八里街道観光推進協議会



「箱根八里」あれこれ

■東海道の成り立ち

天正八年(一九〇)に江戸に入城した徳川家康は、慶長六年(一六〇)東海道、中山道、日光街道、甲州街道、奥州街道の五つの街道と宿駅を制定。慶長九年(一六〇四)には街道の幅員を五間とし、里を三・四町と決めて路傍には榎などを植えた里塚を築かせた。また、街道の道幅を特定するために両側に並木を植え、あわせて旅人たちのための木陰を提供した。

東海道の箱根湯本からの道筋は、鎌倉時代から使われた中世東海道の尾根筋から谷筋に経路が変更された。元箱根から箱根宿までは中世の経路とほぼ同じで、箱根宿から三島宿までは中世の箱根越えの道の東南側に並行して新しく作られた。東海道「箱根八里」は、険しい箱根山を江戸防衛の要として、三島側の西坂は関東に侵入する敵を発見しやすい尾根道、小田原側の東坂は外敵を迎撃しやすい谷筋に経路がとられたといわれている。

■小田原宿

小田原が城下町として発展したのは五世紀末の北条氏の進出後、城は拡張され、その守りの固さで上杉謙信や武田信玄をも退けた。天正八年(一九〇)豊臣秀吉の小田原攻めにより北条氏は小田原城を明け渡す。領地は徳川家康に与えられ、その後西への防衛の要として大久保氏や稲葉氏などの譜代大名が小田原城に入った。

小田原宿は慶長六年(一六〇)に成立。江戸を發つてから九番目の宿場で、起点の日本橋からの距離は約八〇km、手前の大磯宿からは六kmあり、その間に間の宿の梅沢や酒匂川があった。

幕府は江戸防衛のため東海道の主要河川に橋を架けなかつたが、酒匂川も延宝二年(一七四)に徒歩かちも渡りとなり旅人は川越人足の肩や籠白川を渡った。次の箱根宿までは二六kmありあり、険しい箱根越えを控え、小田原宿に泊まり旅に備える旅人が多かった。

小田原宿には本陣と脇本陣が四軒ずつあつて東海道で最多。旅籠の数は江戸時代後期で九五軒あり、東海道最大級の宿場町であった。

■箱根宿

小田原宿と三島宿の間に箱根宿が設けられたのは元和四年(一六二八)。徳川家康により

宿駅伝馬制度が作られてから一七年後である。箱根越えの道の険しさに難儀した参勤交代の大名たちからの要請によるものともいわれている。

当初、幕府は元箱根への宿場の設置を検討したが、箱根権現の門前町であったこととから新たに芦ノ湖畔を開拓、小田原宿と三島宿からそれぞれ五〇軒を移住させた。箱根宿の中心部には、今も小田原町・三島町の名前が残る。

その後、江戸から一〇番目の宿場として規模を拡大、江戸時代後期には、間屋場二軒、本陣六軒、脇本陣二軒、旅籠の数は三六軒あったとされる。

箱根は温泉場としても知られており、奈良時代の発見とされる湯本など歴史ある温泉場が複数ある。三枚橋で東海道と分岐する七湯道の沿線には、湯本、塔之沢、堂ヶ島、宮ノ下、底倉、木賀、芦之湯があり、江戸時代の初め頃から箱根七湯として親しまれた。江戸から気軽に訪ねることのできる箱根は観光地として庶民の人気を呼び、浮世絵などにも多数描かれた。

■三島宿

三島は古くから伊豆国の一宮である三嶋大社の門前町として栄えた。江戸日本橋から数えて十番目の宿場町であり、三嶋大社門前で東海道と下田街道、甲州道が交差する交通の要所であった。江戸

時代初期には、幕府の直轄地として伊豆国を管轄する代官所が置かれていた。当時、伝馬・久保、小中島・大島・四町あたりが宿場の中心地となっており、この四町が中心となって三島宿を運営していた。この本陣と呼ばれた世古本陣と二の本陣・樋口本陣の二軒があり、脇本陣は三軒で旅籠の数は七四軒あった。箱根越えを控えた旅人は三嶋大社に祈願をし、無事に箱根越えを終えた者は三島宿で山祝いをしたと伝えられている。



箱根八里 小田原 - 箱根

- 1 「箱根八里」構成文化財スポット
- 富士山眺望スポット
 - 資料館・博物館
 - バス停
 - 並木
- | | | |
|----------|------------|-------------|
| 「箱根八里」街道 | 石畳道 | 国道 |
| 東海道 | 有料・自動車専用道路 | 主要地方道・都道府県道 |
- ◎ 地図内の輪は全て「東街便覧図略」(名古屋博物館蔵)より「東街便覧図略」は、武士で文筆家兼画家の猿蓑庵(高力権信)が1786年(天明6)に名古屋城下から江戸へ旅した時の記録である。

構成文化財

1 小田原城跡

小田原は北条氏により開かれた城下町で、江戸時代東海道で最大規模の宿場町であった。江戸の守りのために大久保氏や稲葉氏によって治められ、小田原藩の藩庁が置かれた。総石垣と漆喰塗りの白壁や復興天守、城門などは城下町時代の名残りを伝え、小田原宿のシンボリック的存在である。銅門(あかがもん)は二の丸の表門にあり、平成9年に復元。門の名称は大藤などの飾り金具に銅が使われたことによる。馬出門(うまだしもん)は大手筋に位置し、小田原城の二の丸を守る重要な門で平成21年に復元された。



2 かまぼこ通り

かつて網元などの漁業従事者が、相模湾で揚がる鮮魚を蒲鉾に加工。箱根方面の温泉宿で販路を拓き、小田原の名物に育てあげた。かまぼこ通りと呼ばれる通には歴史的な木造建築物の老舗群が残る。



3 ういろう

箱根口にある戦国時代から続く業商。外部(ういろう)家は北条早雲に招かれて小田原に移住。江戸時代には宿老をつとめた。家伝菓を販売するとともに、菓子の「ういろう」も製造販売。東海道の旅行者に広く知られていた。漆喰塗りの白壁や瓦葺のハツ楯造りの建物の裏には蔵を利用した博物館があり、伝来の史料が展示されている。



1:28,000

この地図の作成に当たっては、国土院院員の承認を得て、同院発行の50万1:1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。(承認番号 平29地院、第444-874号)

この地図の作成に当たっては、国土院院員の承認を得て、同院発行の数量地図50mメッシュ(標準)を使用した。(承認番号 平29地院、第445-871号)

©2019 ZENRIN CO., LTD.



鉄道・路線バスお得情報

1日フリー 箱根旧街道・1号線きっぷ
小田原駅～箱根町港間の箱根登山バス+小田原駅～小涌谷駅間の箱根登山電車乗り降り自由
※小田原・箱根周辺の観光施設の優待・割引特典付
大人1,750円/子供880円 Tel.0465-35-1201

1日フリー みしまるきっぷ(フリーきっぷ)
三島市内～箱根峠間の路線バス
1日乗り放題 東海バスオレンジシャトル Tel.055-935-6611

2日間または3日間有効 箱根フリーパス
小田原線往復(出発駅～小田原まで)+指定区内乗り降り自由
(箱根登山電車、箱根登山バス、箱根登山ケーブルカー、箱根ロープウェイ、東海バスオレンジシャトル)他
※箱根周辺の観光施設の優待・割引特典付
大人4,600円/子供1,000円(2日間の場合) 小田原お客さまセンター Tel.03-3481-0066
※小田原駅発で、乗り物を乗り換えた場合

箱根八里 お問い合わせ

箱根八里街道観光推進協議会
〒411-8666 静岡県三島市北田町4番47号
TEL.055-983-2656 FAX.055-983-2754
E-mail:shyokou@city.mishima.shizuoka.jp

箱根町 企画観光部観光課
〒250-0398 神奈川県三島市南郷町下郷箱根町湯本256番地
TEL.0460-95-7410 FAX.0460-95-6815
E-mail:web_kankou@town.hakone.kanagawa.jp

三島市 産業文化部商工観光課
〒411-8666 静岡県三島市北田町4番47号
TEL.055-983-2656 FAX.055-983-2754
E-mail:shyokou@city.mishima.shizuoka.jp

函南町 建設経済部産業振興課
〒419-0192 静岡県函南町平井717番地の13
TEL.055-979-8173 FAX.055-978-3027
E-mail:sangyo@town.kannami.lg.jp

24 箱根旧街道の松並木
三島宿方面に西坂を下り、三嶋大社へと続く旧街道沿いに残る松並木。約1km 続く松並木は現在の東海道では最長。付近には、源頼朝に因む初音ヶ原の地名が残る。富士山の眺望地でもある。

25 三嶋大社
伊豆国一宮として、源頼朝をはじめとした武家の崇敬を集めた。本殿・幣殿・拝殿が国の重要文化財に、境内にあるケンマツシの古木は国の天然記念物に指定されている。宝物館には、国重文に指定された収蔵品が展示されている。

26 鰻料理
三島宿の住人は古くから鰻を三嶋大社の神の使いとして保護。暮米に東海道を通行した薩摩・長州の兵が鰻を食して神前があらなかったことから食べられるようになったとされる。市内には「なぎ横町」に加盟する鰻屋が多数営業している。

20 笹原一里塚
旧街道の石畳を少し上った南側の高台に1基残る一里塚。現在、塚の上には椎などの木があるが、江戸時代の記録では松が植えられたと記されている。

17 腰巻地区の石畳
腰巻地区の石畳の下からは山中城の堀の跡が出土。山中城の信濃出丸(だいさきでる)の堀を一部埋めてたて街道を造ったとされる。

14 山中一里塚
旧街道の南側に1基残る一里塚。江戸時代の記録では塚の上に樹木はないと記されている。

10 11 箱根旧街道の杉並木
戸ノ湖畔に今なお残る杉並木は東海道唯一。約400本の杉の巨木が街道の両側に並んでいる。街道の杉並木は道幅を特定し、旅人を夏の陽射しや冬の風雪から守るために慶長9年(1604)に植えられた。当初は松が植えられたが、その後杉に植え替わったものと考えられている。

7 西海子坂
江戸側からは登り二町余りの坂道。踏み間違えると千尋の谷に落ちるといわれた坂取。

4 畑宿の集落
江戸時代に宿場間に置かれた間の村のひとつ。箱根越えの旅人の休憩のための茶屋があった。畑宿茗荷屋(みょうがや)で休息した大名やオランダ商館長一行が「江戸参府旅行」などの記録に残っている。

5 寄木細工
江戸時代後期に畑宿の石川仁兵衛によって寄木細工の技術が確立されたといわれている。様々な種類の木を組み合わせて模様を作る寄木の木工品は、箱根越えの旅人の土産物として広く知られた。

6 畑宿一里塚
江戸日本橋から23里目にあたる一里塚。直径約9メートルの円形に石積を築き小石を積み上げて石を盛って復元。塚の上には標識樹となる樺と楓が植えられた。箱根町には、海茶屋、畑宿、箱根の3ヶ所に一里塚があった。

8 甘酒茶屋
江戸時代から続く街道沿いの茶店。かつて付近には峠越えの旅人のための掛茶屋が複数あった。畑戸真のきられた茅葺の茶屋では、名物の甘酒や力餅が味わえる。

9 芦ノ湖と箱根神社
富士山を背景に箱根の山々に囲まれて豊かな水をたたえる芦ノ湖は、江戸の旅人たちが憧れた景勝地。ほとりには箱根神社は、奈良時代に萬巻上人によって創建され、鎌倉時代以降源頼朝や徳川家康など武家の崇敬を集めた。

12 箱根関跡
江戸時代、旅人の往来を監視するために箱根に置かれた関所。徳川幕府は、箱根山麓江戸の必勝のために重視。関所は小田原藩によって管理運営され、特に「出女」に対しては、厳重な取り調べが行われた。江戸時代中期の川文庫から発見された史料を元に復元公開されている。

13 甲石坂
坂道の途中に、かつて兜石があったために甲石坂と呼ばれた。箱根町が石畳道を覆う風景ある坂。

15 願合寺地区の石畳
江戸時代の西坂の絵図には6ヶ所の石橋が描かれている。願合寺地区に2ヶ所ある石橋のひとつ「一本杉の石橋」が往時のままの姿で保存されている。

16 山中城跡
永禄年間(1560年代)小田原防衛のために、北条氏により造られた山城。天正18年(1590年)、豊臣秀吉の小田原攻めにより落城。北条流築城術の粋を集めた「障子堀」や「敵堀」が今も残る。富士山や駿河湾を望む景勝地でもある。

箱根八里 箱根-三島

1 「箱根八里」構成文化財スポット

富士山眺望スポット 資料館・博物館

バス停 ●●●●● 並木

箱根八里街道 石畳道 国道

東海道 有料・自動車専用道路 主要地方道・都道府県道

◎地図内の絵は全て「東街便覧図略」(名古屋博物館蔵)より「東街便覧図略」は、武士で文筆家兼画家の徳田隆(高力種信)が1786年(天明6)に名古屋城下から江戸へ旅した時の記録である。

